



2022年度活動方針 うべ環境コミュニティー 副理事長 津島榮

昨年度は主要業務である宇部市まちなか環境学習館関連の管理業務の形態が大きく変わり、落ち着かぬまま新年度を迎えました。遅ればせながらしっかりした計画を立てなくてはならないと、問題提起し、代表理事等で議論を重ね、詳細は省略しますが、表に示すような枠組みを合意しつつあります。

基本方針は、私としては①～③が重要であると考えています。これらを欠いては、着実な成果を上げることができないと信じています。

具体的な事業としては、やはり宇部市から示された仕様書を守りつつ、限られた予算ではありますが、積極的な予算配分を行って、事業の実が上がるようにすることが重要だと思います。

また、UKCの自主事業としては助成金等の資金調達にも最大限の努力をし、生ゴミの堆肥化や環境図書室の活用に重点を置きたいと考えています。これがすべてではありませんが、関わっても良いという部分がありましたら、ご相談ください。

1. 事業方針

- ①宇部市からの受託業務を可能な限り進化した状態で実施する。
- ②自主事業は、地域の課題解決に有効な開発事業を実施する。(外部から評価される事業)
- ③事業は、検証可能な目的・目標を設定し、検証しながら進める。

地球温暖化の行きつく先は??

うべ環境コミュニティー理事 薄井洋基

地球温暖化防止のために、カーボンニュートラル社会の実現が叫ばれています。経済成長と温暖化防止との兼ね合いで、温暖化ガスの放出を想定されるシナリオの範囲で抑制することは大変困難な課題であることは皆さんも痛感されていると思います。それでも私たちみんなが温暖化防止の意識を高めて、色々な温暖化防止の取り組みを進めていくことが大切です。また、ますます厳しくなる環境変化の時代に生きていく私たちが、幸せな状況になることが最も大切なことです。

この度、そのような状況を踏まえて、近未来の地球環境激変を想定して物語を書き、出版しました(5月

【宇部市からの受託業務】

業務	業務内容	事業名称
ESD普及促進に関すること	①ESDや環境学習講座の開催 6回	a) ゴミに関する講座 2回 b) エネルギーに関する講座 2回 c) ESDに関する講座 2回
	②環境学習プログラムの創出	a) 高校生向けESD/SDGs学習プログラムのデザイン及び実施
	③環境保全活動団体間の連携強化、相互支援	a) ESDうべ推進協議会会員2団体に対し、小・中・高校生向けESD学習プログラムデザイン助成を行う b) RC地域対話・宇部コンピナート省エネ・温室効果ガス削減研究協議会
	④ESDうべ推進協議会の開催3回	a) 参加団体間の連携強化 b) 小・中学校環境学習出前講座システムの構築
環境関連情報収集及び発信に関すること	①環境団体の活動情報や他地域の取り組みに関する情報	a) ネット等にて情報収集する
	②HPやSNSを活用した環境学習及び環境保全活動情報の発信	a) HP、SNSを通じて発信する b) ポータルサイトの活用 c) 銀天エコプラザ通信の発行 d) 宇部まつり等への参加

【UKC/ESD自主事業】

事業名称	事業の内容
生ゴミ堆肥化	①プロジェクト立ち上げ ②資金調達にめどをつける
環境図書室の活用	①銀天かたりば ②環境何でも相談

12日発行予定)。

本書では、半世紀後の近未来において、地球温暖化の行き着く先は黒潮消失が魁となる海洋の大循環における深層流の消失と、氷河期の到来であったというストーリーを設けました。地球環境の激変の時代に、人々はどう生きていくのか、この人たちに救いはあるのかを、神戸の諏訪山と、四国の庄内半島を舞台にして描いていきます。また、私たちの生きるビジョンの持ち方と心の安穩は何処にあるのかを語ります。

詳しくはこの通信5月号に添付するチラシをご参照ください。



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

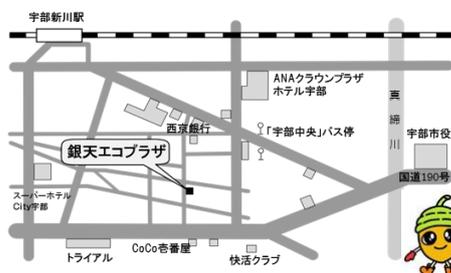
宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



HomePage



facebook



twitter

子育てグッズリユース事業について NPO法人うべネットワーク (宇部市民活動センター「青空」) 寺田裕美

うべネットワークでは、平成27年から「子育てグッズリユース事業」の委託業務を宇部市から受けて、続けています。

事業の内容は、市が回収した(子育てグッズ・子供用スポーツ用品・学生服・学用品)をボランティアさんと一緒に整理し、無料の譲渡会を開催することです。

ここで、さらっと言うと簡単なことに聞こえますが、子育てグッズを整理する仕分けが一番大変です。この事業が始まった頃は、状態の良いものが多く、ゴミもあまり出ませんでした。

このコロナ禍で家にいる時間が増え、テレビでも掃除特集などの番組が放送された影響か、多くのおみなさんは大掃除をされたようです。そのことが原因だと思いますが、回収されるグッズの質の悪さは、目を疑う物ばかりになりました。破損・カビ・乾電池の液漏れは当たり前。動物の毛だらけの物、使用後のオムツ、落書きだらけのおもちゃ、パーツのないおもちゃやパズル。お子さんが学校で作った作品やバザーの売れ残り。子育てグッズではない日用品など。

もちろん、丁寧に出货してくださる方もいます。説明を書いてくださっている方やきれいに袋に入れてくださ

ている方などもいらっしゃいます。作業しているこちらでも嬉しくなります。

回収ボックスは無料でゴミを回収する為に置いていたのではありません。明らかに使えないような物を入れる行為は、不法投棄と一緒です。入れる前に、自分がもらって嬉しい物か、自分の子供がもらってありがたい物か考えて、回収ボックスに入れてください。

譲渡して頂く方は、もらって当たり前ではなく、手元に行くまでにいろんな人の思いがあったことを考えて欲しいです。回収ボックスに入れてくれた方、整理するボランティアさん、譲渡広場をお手伝いするボランティアさんの気持ちを。

本来、この子育てグッズリユース事業の目的は、ゴミの削減、子育て世代への支援です。皆さんの協力なしでは、この事業は続けられないと思っています。物を大切にする気持ち、人を思う気持ちがあれば、ゴミも減っていくのではないかと思います。



写真 回収ボックスのゴミと、子育てグッズ配布の広場

うべ環境コミュニティー会員 ほっこり コラム

中川河口部の体験環境学習の場としての活用 うべ環境コミュニティー 浮田正夫

この日曜日、生物多様性応援団の事務局を務める自然保護協会の呼びかけで、代替地周辺の草刈りに参加したが、何のための草刈りか、単にトンボを観察するための環境整備なのか、トンボ自体の生息にどんな効果があるのかわからないまま、参加してこれていいのかと考えた。

湾岸道路等の建設工事に伴い、希少種のヒヌマイトトンボの生息地が失われる対策として、生息代替地が建設された。しかしそれに続く、中川河川改修工事等が終了してみると、思ったようにトンボが増えてくれず、その主原因はおそらく、中川の浚渫工事により、中川の水位が低下し、代替地への淡水の流入が少なくなったことにあるようだ。対策としては、太陽光パネルと貯水槽を設置して、人為的に代替地に淡水を供給することが考えられる。一度、関係者で議論して、具体的な検討を開始することが望ましいと思う。

中川は河口域に汐止め堰と左岸にポンプ場があり、人工的な管理が行われている。一方で、上流から流れてきたり、鳥によって運ばれる種によって、それなりに多様な植生がある。また、流域から様々なごみ流れ着き、堆積しやすい場所でもあり、防災・郷土史・自然保護・ごみ問題等、総合的な体験的環境学習の場になる。

昨年度までに、長年にわたって堆積してきたごみを地元の方々などの協力を得て、河口部左岸については、おおむねきれいにする事ができた。

すでに厚東川対岸の藤山中学校は2020年度来SDGsの1環として3年生が、この場所でごみの清掃活動を行っている。このような活動が、中川流域の厚南中学校や、黒石中学校にもぜひ広がってほしいものである。



報告／小出裕章さん講演会2022

4月16日(土)午後、宇部市文化会館にて元・京都大学原子炉実験所助教・小出裕章さんの講演会が開催されました。主催：いのち・未来うべ、テーマ「原発事故とは 放射能汚染から子どもたちを守ることができるのか?」。小出さんは220人の参加者を前に、福島廃炉の困難、被爆発がんリスクの年齢依存、小児甲状腺がん発生を説明し、子どもを守る大人の責任を呼びかけました。(H.M.)

